令和八年度

中学校入学試験問題　国語

第二回（二月二日）

試験開始の合図があるまで問題用紙は開かず、左記の注意事項（ちゅういじこう）をよく読んでおきましょう。

一、問題は26ページまであります。足りないページや、印刷のよく見えないページがあったときは、手を上げて申し出てください。

二、解答用紙は別になっています。答えはすべてそこに記入してください。

三、解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。

四、問題用紙には、受験番号・氏名を書く必要はありません。

一　次の文章を読んで、後の1～12の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります）。

階段を下りて、小さなスーパーに向かい、肉や魚や野菜、二、三日分の食料をカゴに入れた。

母さんが祖父の家に自分たちがいるのでは、と気づいて、警察に連絡すれば、自分たちはすぐに捕まってしまうだろう。それは今日かもしれないし、明日かもしれない。そうなったら、自分はまたあの団地に帰る。

そう考えた途端、なぜだかあの団地の給水塔がヒュウの頭のなかに浮かぶ。自分があの団地を出てきたときも、ずっとあの場所にあった給水塔。今も真夏の太陽にじりじりと照らされているのかと思えば、その姿が不思議と懐かしいのだった。

なぜだか今は、この旅が早く終わらないか、と心のどこかで望んでいる自分もいる。何より、桐乃や桐乃の両親を振り回すのはもう無理だ。桐乃のお金がなければ自分はどこにも行けない。無理に旅を続けたとしても、いつかお金も尽きるだろう。そんな無茶なことをいつまでも続けられるとは思えない。

自分が今すぐ桐乃に「団地に帰ろう」と言えばいいのかもしれなかった。そうすれば、この旅は終わる。でも、どうしてもその言葉だけは言いたくなかった。①自分が負けたみたいな気がするからだろうか。団地に帰るのは、せめて、桐乃に海を見せてから。それさえできれば自分はもういつ団地に帰っても構わない。ヒュウはそんなふうに考えるようになっていた。

スーパーから帰り、桐乃と二人で夕飯の準備をした。桐乃は魚を焼き、味噌汁を作る。ヒュウは、ズンたちの家で教えてもらった青菜の炒め物を作った。ズンのアパートにあったような大きな中華鍋はなかったが、大きな鉄のフライパンはある。油と大蒜のみじん切りを入れ、大蒜の香りが立ったら一気に青菜を炒める。バチバチと油がはねるのももう怖くない。

作った料理を、居間のテーブルに運んだ。

②祖父が並べられた料理を見て、目を丸くしている。口の重い祖父は「よくできた」とも「うまそうだ」とも言わなかったけれど、彼が驚いていることは確かで、ヒュウはどこか誇らしい気持ちになった。

「いただきます」と手を合わせ、三人で食事をした。祖父はやはり「おいしい」などとは言わなかったが、彼がこの食事に満足していることは明らかだった。

ヒュウの隣に座っている桐乃もよく食べた。なんだって、自分の祖父の家に桐乃がいるのか、それを考えると不思議だったが、こんな生活もどうせもう少しで終わる。ヒュウは随分と長い時間を桐乃と過ごしてきた気持ちになる。

食事のあとは、祖父が淹れてくれたお茶を飲んだ。

居間の隅に小さなレコードプレイヤーがあって、祖父は一枚のレコードをかけた。レコードプレイヤーもレコードも、ヒュウが幼い頃からあったものだ。だから、両方とも随分と古い。祖父がかけた曲にはどことなく聞き覚えがあった。父さんの膝の上で、この曲を聴いた記憶がうっすらと蘇る。

〈レコードをかけるとき、おじいさんはたいそう機嫌がいいのよ〉

祖母はよくそう言っていた。女の人が歌っているベトナム語の歌詞なんて、以前はまったく気にしたことはなかったが、それは故郷を［A］歌だった。

〈いつか帰れると信じている　あの町
母の涙　父の思い　友との約束

夢で思い出すのは　私のあの家〉

祖父は一人がけのソファに腰掛けて腕を組み、目を閉じている。眠ってしまったのか、と思ったけれど、しばらくはそのままにしておこうとヒュウは思った。

桐乃が立ち上がり、居間の壁に飾られていた世界地図に目をやる。ベトナムと日本の場所に赤い小さなピンが刺さっている。桐乃がヒュウの顔をみて小さな声で言う。

「ベトナムってここなんだ。もっと日本に近いかと思ってた。韓国くらい近いのかと」

「まさか。もっとずっとずっと遠い。僕は行ったことないけれど……」

「えっ、ヒュウは行ったことないの？」

「……」

父も母も日本で生きていくことで精一杯で、そんな余裕はなかった、とは恥ずかしくて言えない。桐乃が再び口を開く。

「……③フアたちもこんな遠くから来たんだ。海を越えて」

「でも、フアたちは飛行機で来たから」

「えっ、飛行機じゃなくて、船で来る人もいるの？　こんなに海ばっかりなのに船で来るなんて怖くない？　ずいぶんと遠くない？」

ヒュウは黙って祖父のほうを見た。

小舟に乗ってやって来た人もいるんだよ。ヒュウは心のなかで答える。

小さな頃、祖父はヒュウの顔を見ると、幾度もこう言っていた。

〈日本には戦争も紛争もない。日本で生まれておまえは幸せだろう?〉と。

今よりもっと小さかった自分は、祖父の言うことに適当に頷いていた。何を言っているのか、その意味を深く考えようともしなかった。でも、すでにもう小さな諍いが始まっていた。幼い頃は、日本人とかベトナム人とか意識せずに暮らしていたのに、少しずつ、自分を疎むまわりからの視線をなんとなく感じるようになった。時には臑を蹴られたり、頭をこづかれたりした。

〈日本で生まれておまえは幸せだろう?〉

祖父にそう言われるたびに、④学校で蹴られた臑がじくり、と痛むような気がした。

翌日、昼食の食器を片付けているときに、ヒュウが桐乃に言った。

「海を見たいだろ? 大きな海水浴場じゃなくて、山の裏道から行けるところがある。そこなら人はあんまり来ないから」

うん、と頷きながら、桐乃は洗った食器の水分を布巾で拭う。

「おじいさん、海に行ってきます」

ヒュウがそう言うと、おじいさんはソファに座ったまま、右手を上げた。

携帯だけをデニムの後ろポケットに入れて、桐乃はヒュウと家を出た。

おじいさんの家からさらに階段を上がり、小さな林に入ってから、獣道のような細い道をずっとずっと下りていく、その下り道が終わると、小さく開けた場所に出た。砂浜はなく、岩場だけがあり、そこにくり返し波がやって来ては、また引いていく。桐乃とヒュウ以外に人はいなかった。

左のほうに目をやると、遠くに大きな海水浴場が見える。水着を着た人たちがジオラマの人形のように小さく見えた。家族連れを見

るのは嫌だなあ、となんとなく思っていたから、これくらいの海が今の桐乃にはちょうどよかった。

やさしい波音が耳をくすぐる。はるか遠くに見える水平線。⑤穏やかな海風が桐乃の体を撫でていく。海をこんなに間近に見たのは、何年ぶりになるのだろう？　海水浴に来たのなんて、自分がずっとずっと小さい頃だ。

波が直接やって来ない岩場にヒュウと離れて座った。ふと下を見ると、潮だまりに取り残された小さな魚や蟹が動いているのが見えた。

デニムの後ろポケットに入れた携帯を手にとる。久しぶりに電源を入れると、たくさんの不在着信履歴やメッセージが目に入る。団地を出てからというもの、電話もメッセージも無視し続けていた。けれど、まだ今は電話に出ることもメッセージを読むこともできなかった。

太陽はじりじりと自分たちを照らしているけれど、団地を出たときのような真夏の勢いはもう失われているような気がした。あっという間に新学期がやって来る。また、あの学校に戻るのか、と思えば、うんざりした気持ちが湧き上がってくるが、桐乃の心のどこかには、勉強したい、という思いがある。無性に、図書館に行って本を読みたかった。ベトナムのこと、フアたちみたいな技能実習生のこと、それに⑥ヒュウみたいな子どもたちのこと。自分はもっと知らないといけない。

それでも、自分から団地に帰るのは、なんだか負けたみたいな気がして嫌だった。ふと、自分が持っているお金がつきるまで、ヒュウとどこまでも旅してみようか、という気持ちにもなるが、この先、どこに行けばいいのかもわからない。こんな旅は永遠に続くわけじゃない。初対面のヒュウのおじいさんに、いつまでも迷惑をかけるわけにもいかない。ふいに桐乃は言った。

「……　B　」

ヒュウは桐乃の顔を見ない。それでも、海のほうを見て大きく頷いた。

「小さな頃はなんにも知らなくて幸せだったな」
ヒュウが前を見たまま言う。
「父さんがいて、母さんがいて、学校だって友だちだって最高だった、夏になるとこの海に来て。そういう幸せがずーっと続くんだと思ってた」
桐乃も海を見ながらヒュウの話を聞いた。
「僕がベトナム人だから、今、幸せじゃないのかな。ベトナム人が日本にいるから幸せになれないのかな」
「違うよ、ヒュウ」そう桐乃は答えたが、⑦それ以上の言葉がなかなか出てこない。それでも言った。
「どこの国の人でも、どこにいても、幸せに生きていくことはできると思うよ。それにヒュウはこの国にいていい人なんだよ。そんなふうに思うことない」
そう言いながら桐乃の頭のなかにフアたちのことが浮かんだ。フアは、もうこの国にいていい人じゃないのだろうか。そう考えると悲しかった。
「じゃあ、桐乃は今、幸せなの？」
「……」
言葉に詰まった。それでも、自分のなかから絞り出すように思いを言葉にした。
「馬鹿みたいだけど、自分が幸せかどうかはよく考えてみてもわからない……でもね、誰かに幸せにしてもらおうと思うのは、もうやめようかな。お母さんが悪いとか、言い続けても、なんにも変わらないような気がして。だからってお母さんのことが急に好きになったわけでもないの。……それはそれとして、⑧私は自分で幸せになろうと思う」

「自分で？」

「だって、誰かが幸せにしてくれるのを待っていたら、どんどん時間が過ぎちゃう。だから、自分でそう決めようと思うの。私は幸せに生きる、って。ちょっと違うかな。私もまだよくわからない。だから、ヒュウにえらそうなことも言えない。……学校が始まったって、前と変わらない毎日が続くだけだと思う。馬鹿みたいなこと言われて、それにいちいち私が怒って……。私が変わってほしいと思っても、まわりは変わらないと思う。前と同じような毎日が続くんだろうけど……だけどね。あんな学校だけどね、私やっぱり学校に行きたい。勉強を思いきりしたい。知らないことをもっと勉強したい」

「勉強……」

「うん、ヒュウが勉強したいのなら、私が助ける。日本語のことも教える」

「……」

ヒュウはどこか困った顔をしているが、それでもかすかに頷いた。

「ヒュウ……、おじいさんの家に連れてきてくれてありがとう。こんな海を見せてくれてありがとう。私、今年の夏休みのことは、一生忘れないような気がする」

「……」

ヒュウが恥ずかしそうにキャップを目深にかぶる。

ヒュウと自分は、多分もうすぐ団地に連れ戻される。今日の夜か、明日の朝かもしれない。長かった旅がやっと終わる。

夕方近くになるまで、桐乃とヒュウはただ黙って海を見ていた。

何時間見ていても桐乃は飽きなかった。この海の先にあるベトナムのことを思った。フアたちがやってきた国。そして帰される国。

いつか自分はベトナムに行くだろう。ファたちには会えないだろう。でも、ファやヒュウやおじいさんの国であるベトナムをいつか絶対に訪(おとず)れる、と自分の心に誓(ちか)った。

ヒュウと桐乃が作った夕食をみんなで食べたあと、廊下(ろうか)にある電話が突然(とつぜん)、鳴った。ああ、もしかして……と桐乃の鼓動(こどう)が速くなる。ヒュウの顔を見る。多分、ヒュウも同じことを考えている。洗い物をしているので、おじいさんが誰と何を話しているのかはわからない。

電話を終えたおじいさんが台所にやって来る。

「娘(むすめ)から電話がかかってきた。警察にも連絡すると。……ただ、夜に騒(さわ)がれるのは大嫌(だいきら)いだ。来るのなら明日にしてほしい、と伝えたよ。それでいいんだな?」

ヒュウが頷く。ヒュウが桐乃の顔を見る。この旅が明日で終わるのか。そう思えば、寂(さび)しい反面、どこか［　C　］自分がいることに桐乃は気づく。

（窪美澄(くぼみすみ)『給水塔から見た虹(にじ)は』による）

問1　――線①「自分が負けたみたいな気がする」とあるが、このときの「ヒュウ」の気持ちを説明したものとして最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　団地に連れ戻されるということは本心を踏(ふ)みにじられるようで怖いという気持ち。

ロ　団地を出ることを決意した過去の自分自身を否定するようで悔(くや)しいという気持ち。

ハ　「桐乃」のお金をあてにして旅を続けるのは人としてふがいないという気持ち。

ニ　「桐乃」よりも先に帰ることを切り出すのは男として恥ずかしいという気持ち。

問2　――線②「祖父が並べられた料理を見て、目を丸くしている」とあるが、このときの祖父の心情を二十字以上三十字以内で説明しなさい。

問3　A　に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　しのぶ　　ロ　になう　　ハ　信じる　　ニ　訪ねる　　ホ　離れる

問4　――線③「フア」に関して説明した次の文の【　　】に当てはまる言葉を、文章中から五字でぬき出しなさい。

・「フア」たちは、【　　】として日本にやってきた。

問5　――線④「学校で蹴られた臑がじくり、と痛むような気がした」とあるが、このときの「ヒュウ」の心情を四十五字以上五十五字以内で説明しなさい。

問6　――線⑤「穏やかな海風が桐乃の体を撫でていく」に用いられている修辞技法として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　倒置法　　ロ　対句法　　ハ　直喩法　　ニ　擬人法

問7　――線⑥「ヒュウみたいな子どもたち」とあるが、その説明として適当なものを、次の中からすべて選んで記号で答えなさい。

イ　日本で生まれ育ったために、自分の両親の母国に一度も足を踏みいれたことのない外国人の子どもたち。
ロ　日本で生まれ育ったものの、学校というせまい世界で不当な差別を受け続けている外国人の子どもたち。
ハ　日本で生まれ育ったために、戦争や紛争のない日本での生活が幸せだと感じている外国人の子どもたち。
ニ　日本で生まれ育ったものの、将来母国に帰るため日本での幸せな生活を求めていない外国人の子どもたち。
ホ　日本で生まれ育ったものの、地域の中で同じ背景を持った人たちとだけ生活している外国人の子どもたち。

問8 [B] に当てはまる「桐乃」の言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ ヒュウは今幸せ？　ロ このまま遠くへ行く？　ハ 団地に帰ろうか　ニ 迷惑かけてごめんね

問9 ――線⑦「それ以上の言葉がなかなか出てこない」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 「ヒュウ」たちのようなベトナム出身の人々に不当な扱(あつか)いをしてきた日本人に対し怒(いか)りを覚えてしまったから。

ロ 「ヒュウ」たちは今後も日本で幸せに生活することなんてきっとできないだろうと心の中で確信していたから。

ハ 「ヒュウ」に自分の思いを正しく伝えるためにどんな言葉を用いればよいか分からず考えこんでしまったから。

ニ 「ヒュウ」の発言があまりにも辛(つら)いものだったので自分の心の整理がつかないくらいにとても悲しかったから。

問10 ――線⑧「私は自分で幸せになろうと思う」とあるが、「桐乃」にとって「自分で幸せにな」るとはどういうことか。文章中の言葉を用いて、三十字以上四十字以内で説明しなさい。

問11 [C] に当てはまる最も適当な表現を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ うっとりしている
ロ がっかりしている
ハ そわそわしている
ニ ほっとしている
ホ わくわくしている

問12 この文章の表現の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 印象的な情景描写を文章中に上手におりこむことで、物語の世界観をリアルに体感することができる。
ロ 語りの視点が途中で切り替わることで、登場人物の感情や考え方について多角的に読むことができる。
ハ 会話文と短文を連続して使うことで物語全体にリズム感が生まれ、テンポ良く読み進めることができる。
ニ 個性豊かな登場人物同士の会話を中心に構成されているので、どの人物にも感情移入することができる。

二

次の文章を読んで、後の1～12の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります）。

嘘をつくとは何をすることでしょうか。こう問われたらどう答えるでしょう。「嘘をつくとは騙すことである」という答えはどうでしょうか。比較的自然に聞こえるのではないでしょうか。しかし、①立ち止まって考えるべきことがたくさんあります。まずここから始めましょう。

例えば、私が街を歩いていると、欲しかったブランド物の靴が安く売られており、喜んで買ったとしましょう。しかし、家に帰ってよく見ると偽物であることが判明しました。この時、私は「A」と悔しがるでしょう。騙したのはこの店の店員であり、騙されたのは偽物を買ってしまった私です。しかし、この時、私は「B」と思うでしょうか。あるいは、友人にその経験を話すとき、「あの店でC」とは自然に言えそうですが、「あの店でD」と言うのは不自然な感があります。

この場合と次の場合を比較してみましょう。私が街を歩いていると、ブランド物を扱う店があり、店員が「その靴は○○〔ブランド名〕製ですよ。今日は特別価格ですよ」と声をかけてきました。喜んで買いましたが、家に帰ってよく見ると偽物であることが分かりました。この時、私は「騙された」と思うだけでなく、同時に今回は「嘘をつかれた」とも思うでしょう。

二つの例の違いは何でしょう。お分かりの通り、第一の場合には店員は何も言わなかったのに対して、第二の場合には店員が言葉を発しているという違いがあります。第一の場合、店員はたしかに私を騙しはしたけれど嘘をついたわけではなく、第二の場合、店員は②私を騙しただけでなく嘘もついていた、という違いがあります。

一方で、第一の場合の店員が示しているように、嘘をつかなくても騙すことは可能です。他方で、嘘はついたものの騙すことはなかっ

た、ということも可能です。第二の場合において、私は、店員に「その靴は○○製ですよ」と声をかけられましたが、その店員の口調や挙動などから察してその発言を嘘だと見破り、結局、騙されなかった、ということがありえます。この場合、店員は私を騙すことはできませんでした。しかし、嘘をついたことには変わりありません。

以上から、③嘘をつくことと騙すこととは等しくないことが分かります。嘘をつくことは騙すことと言い換えられる何かではないわけです。

嘘とは何かという問いを扱う際に、嘘をつくことと騙すことの違いを問うというやり方は哲学ではよくあるやり方です。嘘の場合に限らず、哲学では「□□とは何か」「□□をするとは何をすることか」などといった根本的な問いを扱うことが多くあります。こうした問いを前にすると、いかにも抽象的な問いであり、哲学は「答えのない問い」を問う学問なのだといった感想をもつ人が少なくありません。たしかに最初から正解のある問いを問うているわけではないというのはそうでしょう。しかし、全く答えのない問いを問うているというわけではないので、この機会に確認しておきたいと思います。

□□に嘘を入れるのであれ、幸福や友情を入れるのであれ、たしかに「□□とは何か」という大きく開かれた問いは、イエス・ノーで答えるアンケート項目のように狭い問いではありません。それゆえ、そのままではどう答えればよいのか④途方に暮れても無理はありません。しかし、哲学的に考えようとするなら、こうした大きな問いに［E］に答えるためのさまざまな工夫が必要であり、その工夫の方法を知っておくことが大切です。

例えば、類似の概念を並べるのはそうした工夫の一つです。嘘をつくとは何をすることかを問うために、騙すことという⑤類似の概念との比較検討を行うわけです。それによって嘘をつくことは何をすることか、あるいは何をすることではないかが、多少なりとも明

らかになることが期待されます。同じことは、例えば、「友情とは何か」を問う際に、友情と恋愛の違いや友達と恋人の違いは何かを問うとか、「幸福とは何か」を問う際に、幸福な人生と価値ある人生は等しいかを問うなどという場合にも当てはまります。

他にも、類似の概念を並べるのではなく、反対の意味をもつ概念を並べるなど、大きく開かれた問いにさまざまな角度から［F］する方法があります。例えば、「愛とは何か」を問う際に、愛と憎しみを並べて両者の関係を考えるなどです。

嘘をつくことと騙すこととは別物だということは明らかになりました。けれど、そもそも両者を比較検討したのは両者が類似しているからであり、深く考えないと両者はイコールで結べるように思えてしまうからでした。そうだとすると、両者の概念の間には相違点だけでなく、密接な関連性があるはずです。

［G］、嘘をつくことと騙すこととはどのように関連しているのでしょうか。この点を明らかにするために、まず、騙すとはどういうことかを考えておきましょう。先の店員は、二つの場面において、無言であるか嘘をついたかはともかく、私を騙そうとしていました。

店員は、その靴が○○製の靴であると自分では信じていないのに、私にはその靴が○○製の靴であると信じさせようとしていたのです。別の言い方をすれば、この店員は自分では真でない（偽である）と信じていることを私には信じさせようと意図していたのです。

［H］、騙すとは、〈自分では偽だと信じていることを相手に信じさせること〉だと言えるでしょう。私は、その店員が偽だと信じていることを真であると信じ込み、真だと信じた内容に基づいてその靴を買うという行為をしてしまったのです。

店員は私を騙そうと意図して嘘をつきました。すると、嘘をつくことと騙すことの関係は次のように言えるでしょう。嘘をつくことにとって騙すことはそこで意図されていることであり、簡潔に言えば、⑥騙すことは嘘の意図である、と。

重要なことは、一般に、意図は実現することも実現しないこともありえるということです。［　I　］、私が相手を喜ばせようと意図して、プレゼントを贈ったとします。しかし残念ながら相手はこのプレゼントを気に入らず、喜びませんでした。相手を喜ばせるという意図は実現しませんでしたが、私がプレゼントを贈る行為をしたことには変わりありません。同様に、店員が私を騙そうと意図して嘘をついたとしても私を騙せるかどうかは分かりません。私が見破ったら、騙そうとする意図は実現されずに終わります。しかし、この意図が実現しなかったからといって嘘をつく行為がなされなかったということにはなりません。むしろ、騙そうと意図して嘘をついたというその事実が浮き彫りになり、私を怒らせるでしょう。

私たちは、相手を騙そうと意図して嘘をつくことがあります。しかし、先の店員の例から分かったように、騙そうと意図してなされる行為は、嘘をつくことによっても、そうでない行為によっても可能です。先の店員の第一の例において、店員は、無言で、⑦それらしい靴をそれらしく陳列することによって、私を騙そうと意図していました。⑧嘘をつかずに騙す方法はそれ以外にもいろいろあります。

例えば、私が警察官の制服をきて道に立っていると、道ゆく人は私のことを警察官だと思うかもしれません。実は私は、道ゆく人たちに、私は警察官だと思い込ませようと意図して、変装しており、人々が「あ、警察だ」と思って目をそらしたりするのを見て楽しんでいるのです。そうした場合、私は、街中での変装によって、自分が信じていないこと（私が警察官であること）を真であると他人に信じ込ませることができています。つまり、騙そうという意図を、嘘をつかずに実現しています。このような無言の変装行為は、私が「私服警官の者ですが」などと道ゆく人に話しかける場合とは、やっていることが相当に異なります。後者のように言葉を発して相手を騙そうとした時には、私は嘘をついたと言われるでしょう。

（池田喬『「嘘をつく」とはどういうことか　哲学から考える』による）

問1　――線①「立ち止まって考える」とほぼ同じ意味の言葉を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　一考　　ロ　参考　　ハ　選考　　ニ　備考

問2　A ～ D に当てはまる言葉を、それぞれ次の中から選んで記号で答えなさい（同じ記号を何度使ってもよい）。

イ　騙された　　ロ　嘘をつかれた

問3　――線②「私を騙しただけでなく嘘もついていた」とあるが、この場合の「嘘」とは具体的にどういうことか。十五字以上二十五字以内で説明しなさい。

問4　――線③「嘘をつくことと騙すこととは等しくない」とあるが、その理由を説明したものとして最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　嘘をついたにせよ嘘をつかなかったにせよ、騙されてしまう人は騙されるものだから。
ロ　嘘をつく際に悪意が含まれるかどうかが、相手を騙せるか否かを分ける要因となるから。
ハ　嘘をつかなくても騙すことはできるし、嘘をついても騙せなかったということもあるから。
ニ　嘘をついている人の言葉を慎重に見極めることができれば、決して騙されることはないから。

問5　――線④「途方に暮れて」とあるが「途方に暮れた」の使い方として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　裁判で途方に暮れたために私にとって不利な判決が出た。
ロ　道に迷って途方に暮れた私に声をかけてくれた人がいた。
ハ　宝くじが高額当選して途方に暮れた金額を手に入れた。
ニ　勉強をせずに試験を受けて途方に暮れた結果になった。

問6 E に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 意欲的　ロ 実用的　ハ 多面的　ニ 楽天的

問7 ――線⑤「類似の概念との比較検討を行う」とあるが、なぜそのようなことをするのか。それを説明した次の文の【　　】に当てはまる表現を十字以上十五字以内で考えて答えなさい。

・二つの概念の【　　】、大きな問いに答えるため。

問8 F に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ アプローチ　ロ コントロール　ハ コンプリート　ニ ノミネート

問9 G ～ I に当てはまる言葉を、それぞれ次の中から選んで記号で答えなさい（同じ記号は二度使えない）。

イ 一方で　ロ しかし　ハ すると　ニ 例えば　ホ では

問10　――線⑥「騙すことは嘘の意図である」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　自分では真だと信じていることを、相手に偽だと信じさせるために嘘をつくということ。
ロ　自分では真だと信じていることを、相手に真だと信じさせるために嘘をつくということ。
ハ　自分では偽だと信じていることを、相手に偽だと信じさせるために嘘をつくということ。
ニ　自分では偽だと信じていることを、相手に真だと信じさせるために嘘をつくということ。

問11　――線⑦「それ」が指しているものは何か。文章中から五字でぬき出しなさい。

問12　――線⑧「嘘をつかずに騙す」とあるが、その例として適当なものを、次の中から一つ選んで答えなさい。

イ　牛のマークののぼりを立てた串焼(くしや)きの屋台で、牛のタンではなく豚(ぶた)のタンを具材として使用していた。
ロ　子どもの自転車の練習の際に、手を離(はな)さないと約束しておきながら良かれと思って内緒(ないしょ)で手を離した。
ハ　新米を使った商品を仕入れたと思っていた店員が、実際には古米が使われたおにぎりを販売(はんばい)していた。
ニ　野菜が嫌(きら)いな子どもに「野菜は入っていないよ」と言って、にんじん入りのハンバーグを食べさせた。

三　次の文章を読んで、後の1～7の問いに答えなさい（問題の都合上、本文を変えているところがあります）。

「サラダ」と「七月」のように、主に語頭で似たような子音や母音を繰り返すことを「頭韻」と呼ぶ。俵さんは時々、「韻踏みマニアですか？」というほど頭韻を踏んだ①短歌をおつくりになられる。

「さ行」に関して言えば、次の短歌はもう確実に頭韻の響きを狙っていらっしゃる。

Ⅰ　さくらさくらさくら咲き初め咲き終りなにもなかったような公園

（『サラダ記念日』）

それから最近の作品では、こんな歌がある。

Ⅱ　むっちゃ夢中とことん得意どこまでも努力できればプロフェッショナル

（『アボカドの種』角川文化振興財団、二〇二三年）

まず「むっちゃむちゅう」の部分で、「む」が繰り返されつつ、「ちゃ」と「ちゅ」が頭韻を踏んでいる。そこから「とことん」の「と」、「とくい」の「と」、そして②「どこまでも」の「ど」と「どりょく」の「ど」、さらに「できれば」の「で」はすべて音声学

的に似た音なので、五つの音が頭韻の鎖でつながっている。うーん、素敵。

そして、「頭韻」と言えば、このエピソードを語らずにはいられない。俵さんと対談した次の日、私は俵さんと、俵さんの息子さんを勤務先の慶應義塾大学にてお出迎えした。日本のヒップホップ文化を築きあげた偉人のひとりZeebraさんが講演をすることになっていたからである。

開催者権限をフルに活用して、おふたりを最前列の関係者席にご招待した。講演中、Zeebraさんは「Original Rhyme Animal」という楽曲の中の「突き刺さるぜ　その錆びた　心に」の部分に、「A」の頭韻を入れていることを語っていた。まさか、二日連続、同じ言語学的表現方法についての話を聞くとは思わなかった。しかも、歌人とラッパーという一見するとまったく異分野の創作者の方々から。「サラダ記念日」と「Original Rhyme Animal」の間に③こんな共通性があったなんて！

こんな経験を通して、「短歌もラップも言語を使った芸術としての共通性を持つのだ」という私の信念は強まっていった。

せっかくなので、俵さんの短歌の中で、頭韻が仕込んである（と私が感じた）他の例をもう少し見ていくことにしよう。

Ⅲ　コーヒーのかくまで香る食卓に愛だけがある人生なんて

Ⅳ　寄せ返す波のしぐさの優しさにいつ言われてもいい　B

Ⅴ　一山で百円也のトマトたちつまらなそうに並ぶ店先

（いずれも『サラダ記念日』）

最初の短歌では「［　C　］」が繰り返されている。「コーヒーのかくまでかおるしょくたく」の部分だけで、音声学者としてはご褒美である。

ふたつ目はどうだろう。「よせかえす」「しぐさ」「やさしさ」は「さ行」を多く含んでいて、ここに繰り返しの心地よさを感じる。そして、この「さ行」頭韻は、最後の締めである「［　B　］」に着地していく。また、「いつ」「いわれても」「いい」はすべて「い」で始まり、頭韻を踏んでいる。さらに音声学的には「い」と「や行」は似た音であるから、「い」の繰り返しは句頭の「［　D　］」及び「［　E　］」にもつながる。

これはご本人に確認したわけではないから、音声学者の深読みかもしれない……。しかし、もし、読者のみなさまがふたつ目の短歌に「音の響きの心地よさ」を感じたのなら、そこにはこのような音声学的な理由が潜んでいるかもしれない。

最後の短歌では、「な行」と「ま行」が繰り返し現れる。これもいい。次章でじっくり説明するが、「な行」も「ま行」も、「鼻音」と呼ばれる子音――つまり鼻から空気が流れる子音――が含まれるという点で共通した性質を持っている。俵さんに失礼かもしれないが、鼻をつまみながら最後の短歌を読んでみてほしい（俵さん、すみません……）。④鼻に違和感を覚える瞬間が繰り返されるはずだ。

このような例を見ていくと、やはり「音声学的に似た音の繰り返し」というのは、短歌の味わいのひとつとなっているのだろう。

（川原繁人『「声」の言語学入門　私たちはいかに話し、歌うのか』による）

問1　――線①「短歌」を説明した次の文の【　1　】に入る漢数字を答えなさい。また、【　2　】に入る漢字二字を考えて答えなさい。

・短歌は【　1　】音で構成されるのが基本である。また、俳句とは異なり、【　2　】を入れる必要はない。

問2　――線②「『どこまでも』の『ど』と『どりょく』の『ど』、さらに『できれば』の『で』」とあるが、この三つの音について筆者はどのような共通点があると考えているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　同じ母音を持つという点。
ロ　濁(にご)る音であるという点。
ハ　唇(くちびる)を閉じて発音するという点。
ニ　ひらがなで表記するという点。

問3　A・C に当てはまる言葉を、それぞれ次の中から選んで記号で答えなさい。

イ　あ行　　ロ　か行　　ハ　さ行　　ニ　た行　　ホ　な行　　ヘ　は行

問4　――線③「こんな共通性」とはどういう「共通性」か。それを説明した次の文の【　　】に入る五字の表現を、文章中の言葉を使って答えなさい。

・「俵さん」の短歌も、「Zeebra さん」の楽曲も、作品を制作する際に【　　】ことを意識している点で共通性がある。

問5　二カ所ある［　B　］に共通して当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ　アイラブユー　　ロ　お元気で　　ハ　おめでとう　　ニ　さようなら　　ホ　ごきげんよう

問6　［　D　］・［　E　］に当てはまる言葉を、Ⅳの短歌からそれぞれぬき出しなさい。

問7　――線④「鼻に違和感を覚える瞬間」とあるが、Ⅴの短歌のどの部分を指していると考えられるか。次のイ～トのうち、当てはまらないものを一つ選んで記号で答えなさい。

・イ 一山で　ロ 百円　ハ 也の　ニ トマトたち　ホ つまらなそうに　ヘ 並ぶ　ト 店先

四

次の文の――線のひかれたカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

① 親しい国とメイヤクを結ぶことになった。

② 農民がトトウを組んで一揆をおこした。

③ 大地震でスンダンされた道路を修復する。

④ ある人物の素行をすぐに調査してほしい。

本校の許可なく、掲載内容の一部およびすべてを複製、転載または配布、印刷するなど、第三者の利用に供することを禁止致します。